

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870300690
法人名	医療法人 三善会
事業所名	グループホーム丸の内はとぽっぽ
所在地	宇和島市丸之内 1－4－7
自己評価作成日	平成24年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年7月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

お一人おひとりがそれぞれ得意な分野で活躍し、活き活きと過ごしてもらうことに力を入れている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●以前、利用者が事業所周围の草引きをされていた頃、手伝ってくださった地域の方は、利用者が草引きができなくなった現在でも、草引きを行ってくださっている。自治会は、年1回、「ホーム便り」を回覧して下さっている。又、地域の「クリーン運動」時には、職員が参加して、地域の方と一緒に掃除をされている。
●利用者の状態のこともあって、食事の下ごしらえ等を行う利用者は減っているようだが、食後、これまで通りご自分の食器を洗う方は多く、調査訪問時も、順番を待って洗っておられる様子がみられた。朝食は、起きた順に、ご自分でパンを焼いたり、職員が準備をされている。昼・夕食で、魚・肉どちらかをメニューに採り入れて、栄養が偏らないように考えておられる。誕生日には、その方の好きなメニューでお祝いされたり、夏祭りには、お弁当にして、お祭り気分を味わえるよう工夫されている。食べ物が飲み込みにくい状態の利用者には、ご本人が飲み慣れているクロレラの瓶を使って、飲みやすくなるような支援に工夫されており、できるだけ口から食べることを続けられるような支援に取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	☐	1. ほぼ全ての家族と
		☐	2. 利用者の2/3くらいの			☐	2. 家族の2/3くらいと
		☐	3. 利用者の1/3くらいの			☐	3. 家族の1/3くらいと
		☐	4. ほとんど掴んでいない			☐	4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	☐	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	☐	1. ほぼ毎日のように
		☐	2. 数日に1回程度ある			☐	2. 数日に1回程度
		☐	3. たまにある			☐	3. たまに
		☐	4. ほとんどない			☐	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	☐	1. 大いに増えている
		☐	2. 利用者の2/3くらいが			☐	2. 少しずつ増えている
		☐	3. 利用者の1/3くらいが			☐	3. あまり増えていない
		☐	4. ほとんどいない			☐	4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11, 12)	☐	1. ほぼ全ての職員が
		☐	2. 利用者の2/3くらいが			☐	2. 職員の2/3くらいが
		☐	3. 利用者の1/3くらいが			☐	3. 職員の1/3くらいが
		☐	4. ほとんどいない			☐	4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が
		☐	2. 利用者の2/3くらいが			☐	2. 利用者の2/3くらいが
		☐	3. 利用者の1/3くらいが			☐	3. 利用者の1/3くらいが
		☐	4. ほとんどいない			☐	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が
		☐	2. 利用者の2/3くらいが			☐	2. 家族等の2/3くらいが
		☐	3. 利用者の1/3くらいが			☐	3. 家族等の1/3くらいが
		☐	4. ほとんどいない			☐	4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が				
		☐	2. 利用者の2/3くらいが				
		☐	3. 利用者の1/3くらいが				
		☐	4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム丸の内はとぼっぽ

(ユニット名) 青鳩

記入者(管理者)

氏 名 清水 素美子

評価完了日 平成24年 6 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			「自分らしく暮したい」と開設当初の入居者が話し合い、筆 で書かれた青鳩の理念を共有してその人らしさを尊重した サービスの提供に努めている。	
			(外部評価)	
			「お一人おひとりがその人らしく生活できるように支援しま す。」という事業所理念とともに、ユニット理念をそれぞれの 居間入口に掲示されている。管理者は、「利用者一人ひと りの違う思いに沿う支援」ができるよう職員に話し、理念の実践 につなげておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価)	
			地域資源を活用したり、祭事やイベント、自治会へ積極的に 参加したり、ボランティアの受け入れをしたりしている。	
			(外部評価)	
			以前、利用者が事業所周围の草引きをされていた頃、手 伝ってくださっていた地域の方は、利用者が草引きができな くなった現在でも、草引きを行ってくださっている。自治会 は、年1回、「ホーム便り」を回覧してくださっている。又、地域 の「クリーン運動」時には、職員が参加して、地域の方と一緒 に掃除をされている。隣接のコンビニには、国道を渡らず行 けるということもあって、利用者は時々買い物を楽しまれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)	
			地域との交流の中で認知症の方を理解していただくよう努め ている。またホーム新聞を自治会で回覧してもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価)	
			2ヶ月に1度運営推進会議を開き、行事や研修・暮らしの報 告をして話し合いご意見をいただいている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	(外部評価)	
			事業所のすぐ裏の城山で、がけ崩れがあり、県が修復工事 を行うこととなり、自治会長は、利用者・職員の安全のため に、「事業所からの避難道を作してほしい」と、県に要望して くださった。市の担当者から、「ご自宅で認知症の介護をして いる方に声のかけ方等をアドバイスしてほしい」という要望が あり、事業所では、「大勢の方の訪問があると落ち着きが悪く なる利用者」もあるため、「事業所見学会」や「介護相談会」 は、希望時に個別に対応することにされていた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			職員全体が身体拘束をしないケアを理解し、実践している。 玄関は安全の為夜間のみ施錠している。	
			(外部評価)	
			転倒して骨折され入院となっても、短期間で退院となる場合 が多い。ご本人は以前と同じような気持ちで動かれることもあ り、ご家族には、「ご自分で動けることの意義とともに、居室に 職員がずっと付いているわけにいかず、再度転倒する可能 性が高い」ことを説明されている。ご家族と居室の環境につ いて相談され、ご自分で、いすや家具等を伝いながら歩ける ように、物の配置を工夫して環境を整えられた。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			研修で学んだことを共有して、言葉や身体への暴力等見過ごされていないか話し合いをしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			必要な方は制度を活用している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			入所前に自宅訪問したり、本人家族へ説明しご理解と同意をして頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			家族の訪問時には話しやすい雰囲気づくりに努め、思いを伺うようにしている。 介護相談員の方にも訪問していただき、話す機会もある。	
			(外部評価)	
			毎月のホーム便りには、個別に「ベストショット写真」を載せて、日々の様子を添えご家族に送付されている。「食欲が減っている様子」等、便りでは実際の状態が伝えにくいようなことは、ご家族の来訪時に、ご本人の様子等をみていただきながら報告や説明をされている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			必要時には職員と意見交換し、職員からの出た意見や提案を聞き管理者会議で報告させてもらっている。	
			(外部評価)	
			毎日、10時と3時に、その日勤務の職員で「ミニミーティング」を行っておられ、職員は、ケアについて相談されたり、申し合わせておられる。又、各ユニットに主任・副主任がおり、4人で連携して取り組みをすすめておられる。行事ごとや通院等、人手が必要な時にはパート職員の勤務時間を延長してもらうこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			月一回の管理者会議に問題点などを報告して努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			愛媛県地域密着型連絡協議会の南予研修を中心に必要時応じて参加できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			他のグループホームの運営推進会議への参加・宇和島市グループホーム連絡会の交流に参加し、意見交換してサービスの向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			安心して生活できるよう本人に寄り添い、思いを受けとめ信頼関係が築けるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け ながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入所時にご家族から困っていること・不安なこと・ご要望など をお聞きしながら、共に支援していく関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族 等が「その時」まず必要としている支援を見極 め、他のサービス利用も含めた対応に努めてい る	(自己評価)	
			本人や家族の思いを把握し、情報収集をして必要な支援を 見極めるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る	(自己評価)	
			本人の得意分野を生かし、調理の下ごしらえや配膳等一緒 に行なったりしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			出来るだけ協力して支えあえるよう働きかけ、絆を大切にし ていけるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないう、支援に努めてい る	(自己評価)	
			ご家族になじみの美容院に連れて行ってもらっている方もい る。 要望をお聞きし、支援できるよう努めているが関係が途 切れがちになってきている。	
			(外部評価)	
			ドライブの際、ご自宅やご家族の勤め先の近くを通る時に は、職員が話を向けるようにされている。和霊大祭は、お若 い頃「うわじま踊り」を行っていた方等は、特に楽しみにされ ている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関わりを見守る支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて相談や支援をしている。また退所された方のご家族の訪問があり、その関係を大切にしていこうと思っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中から思いをくみ取るよう努めている。困難な方の場合には本人の立場に立って支援を検討させてもらっている。 (外部評価) アセスメントシートは、介護計画作成時ごとに情報を追加して職員間で共有されている。利用者のご家族との関係やご家族同士の関係等についても「利用者の立場に立ったケアに必要な情報」と捉えて、把握に努めておられる。以前は得意だったことも、現在できなくなっていることもあり、採り入れ方によっては、ご本人に恥をかかせることにもなり、「支援には注意が必要」と管理者は話しておられた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族の方にセンター方式シートを書いていただいたり、本人との対話の中から情報を収集したりしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別の24時間シートに記録し、職員間で情報を共有して状態の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			本人の思いやご家族の要望、職員間での話し合いをした上で、本人に必要な支援を見極め、介護計画の作成に努めている。	
			(外部評価)	
			利用者・ご家族からの意向や意見をそのままの言葉で介護計画書に記し、ご本人の希望を大切にしたい支援ができるよう計画作成に取り組まれている。「ご家族との時間を作る」ことに向けて、「ご自宅に泊まる」等、ご家族の協力も得て、支援が具体的に計画されている例もみられた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			個別記録を通して情報を共有し、話し合いながら介護計画の見直しに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			ニーズに応じた柔軟な対応ができるよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			スーパーやコンビニ、図書館、神社等の地域資源を活用し、楽しみのある生活ができるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			本人・家族の意志を尊重し、ご家族の協力を得て希望する病院を受診してもらっている。 場合によってはホームと連携している医師に診察してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(外部評価)	
			利用者のご家族の希望するかかりつけ医の受診が基本であるが、「母体が脳神経外科なので安心できる」と変更する方もおられる。利用者の転倒があった場合には、近くに居て、その時の状態を把握している職員が受診介助をして、医師にその時の様子を伝えたり、ご家族の同意があれば職員も一緒に医師からの説明を聞くようにされている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	
			入院時にサマリーの提出と状態報告などの情報交換をして安心して治療を受けられるよう支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			早い段階では話し合いは行なえておらず、必要になった段階でご家族に意向をお伺いして決定している。見取りのテレビ番組を見ながら3名の方に聞いてみたことはある。	
			(外部評価)	
			事業所では、これまで看取りを支援された事例はないが、管理者は、「利用者等の希望があれば最期まで支援したい」という気持ちを持っておられる。胃ろうをテーマにしたテレビ番組をみていて、職員は利用者に、希望を聞いてみられたことがあり、利用者は、「胃ろうなんかしていらん」「食べれなくなったら死んだ方がええ」「そんな人に迷惑かけてまで生きとうない」等の意見が聞かれたようだ。	終末期のあり方について、利用者やご家族の考えをお聞きしたり、事業所でできること等を伝えて、話し合うような機会を作ってみてはどうだろうか。利用者やご家族の希望に沿った支援ができるよう、事業所理念にも照らし合わせて、事業所の体制作りについて考えてみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			年1回は救命救急の講習を受けているし、日頃から職員同士で対処方法の確認をしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			火災時の非難訓練を行っている。市の災害時の避難訓練では、地域の方の協力も得て全員無事避難できた。	
			(外部評価)	
			地域の「災害避難訓練」時には、一次避難場所まで避難する訓練を地域の方達とともに実施された。事業所は耐震性のある建物でもあり、実際に地震が起こった場合は、2階に集合し、事業所内で治まるのを待つことにされている。	常に変化する利用者の状態を考えて、いざという時に慌てず、安全に避難できるように対策を検討していかれてほしい。災害発生時、必要な物品や連絡手段、利用できる施設の情報や地域との連携体制、又、避難場所での利用者のケア等についても、東日本大震災の教訓等を活かして、今後の安全安心への取り組みに反映していかれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			言葉かけには十分注意して対応するよう心かけているが、馴れ合いになってしまっていて反省する時がある。	
			(外部評価)	
			自治会の回覧板で回すホーム新聞は、利用者の個人情報には載せないよう配慮されている。管理者は、「利用者の横にご家族がいると仮定して声かけをする」よう指導されており、トイレ誘導時等、利用者への声かけに気になる場面が見られる時には、職員同士で注意し合っておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			自己決定ができるような働きかけに努めているが、思いを引き出せない時がある。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入浴などで職員の方で誘導させてもらう事はあるが、自立出 来ている方はそれぞれのペースで過ごせるよう支援してい る。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 本人の希望と少しの声かけでその人らしい身だしなみを楽し んでいただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理の下ごしらえや配膳、食事の片付けを職員と一緒にし て楽しんでいただけるよう支援している。 (外部評価) 利用者の状態のこともあって、食事の下ごしらえ等を行う利 用者は減っているようだが、食後、これまで通りご自分の食 器を洗う方は多く、調査訪問時も、順番を待って洗っておら れる様子がみられた。朝食は、起きた順に、ご自分でパンを 焼いたり、職員が準備をされている。昼・夕食で、魚・肉どち らかをメニューに採り入れて、栄養が偏らないように考えてお られる。誕生日には、その方の好きなメニューでお祝いされ たり、夏祭りには、お弁当にして、お祭り気分を味わえるよう 工夫されている。食べ物が飲み込みにくい状態の利用者に は、ご本人が飲み慣れているクロレラの瓶を使って、飲みや すくなるような支援に工夫されており、できるだけ口から食 べることを続けられるような支援に取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) お一人おひとりの状態に応じて十分な水分摂取をしていた だけよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアの声かけや介助をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			可能な限りトイレでの排泄をしていただき、気持ちよく過ごせるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(外部評価)	
			半数以上の方が何らかの介助が必要になってきているが、できる限りトイレで排泄できるような支援に努めておられ、利用者の状態によっては、安全のため職員2名で介助されている。居室にバケツと新聞紙を用意して、使用した紙パンツ等をご自分で始末できるようにしている方もある。頻回にトイレに行く利用者には、得意な広告の箱折りをお願いする等して、「気を逸らす」等の支援も試しておられた。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			見守りや介助が必要な為、2日に1度の入浴で時間帯も日中に限られていて希望に副えていない。	
46		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(外部評価)	
			「2日に1回は入浴」を目指して取り組んでおられる。「着替えは、まだかまん」と言われる方には、入浴中、そつとご本人が脱衣した形に着替えを置く等して、清潔を保てるよう支援されている。介護度が重介護の方は、シャワー浴が多くなるが、時には職員が2名で介助して湯船で温まれるよう支援されている。今後さらに、利用者個々の入浴の好みや習慣を支援に採り入れながら、入浴を楽しめるよう利用者主体の支援を工夫していかれてほしい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			自由に過ごしていただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	
			服薬確認表があり、副作用の確認が出来るようにしていて、利用者全員の服薬支援をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	
			買物で活躍される方、本や新聞を一日中読まれている方、配膳のとき張り切る方、お花見やドライブは気分転換になると皆さん喜ばれている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	
			手芸用品を買いに行きたいと希望される方もあり、希望時には一緒に外出するように努めている。	
			(外部評価)	
			重度化に伴い、みんなでちょっと散歩や買い物に出かけることが難しくなってきたため、現在は、少人数で外出することに取り組まれている。近くにコンビニができ、国道を渡らず買い物ができることで利用者の楽しみも増えたようだ。利用者の中には、おやつをご自分で選んで買う方もおられる。月に1回、車で季節の花を見に出かけたり、外食に出かける機会も作られている。利用者がテレビや新聞で行ってみたいところを見つけられて、外出先が決まることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	
			自己管理できる方はお金を所持している。管理できない方はホームで預かっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	
			自由に電話をかけたり手紙のやりとりが出来るよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			季節毎の飾り付けをしたり、室温も適温にしたりして過ごしやすようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(外部評価)	
			玄関脇や駐車場のあちこちにイスやベンチを置いておられ、利用者は一休みしたり、気候のよい時に外でお茶を楽しまれている。1階ユニットには、ピアノがあり、月2回ピアノの先生が来てくださり、演奏に合わせてみんなで歌っておられ、利用者も楽しみにされている。居間のテーブルは複数配置されており、気の合う方同士で席をともにして、個々が居心地よく過ごせるよう配慮されている。洗たくできた衣類は、個々に分けてかごに入れ、「〇〇さんの洗たくものです。干しましょう」と職員は、利用者に声をかけておられた。トイレの使い方について、利用者に注意していただきたいことをよく見える位置に貼っておられた。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			仏壇を持ってこられたり、家具を持ってこられたりして居心地よく過ごしていただいている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(外部評価)	
			巨人ファンの方の居室には、選手の写真を貼っておられ、職員は、「昨夜、巨人勝った？」と話しかける等して、話題に出してご本人からお話を聞いておられる。又、犬の好きな方は、ぬいぐるみを置いたり写真を貼って、お好きなものに囲まれて暮らせるような空間を作っておられる。エアコンがお嫌いな方は、入口に利用者と一緒に作ったカーテンを吊り、ドアを開けて室温を調節されている。	